

スズキ（地方名：セイゴ、フッコ）



スズキの成長

| 年齢 | 標準体長 (cm) | 体重 (kg) |
|----|-----------|---------|
| 1 | 21 | 0.1 |
| 2 | 29 | 0.4 |
| 3 | 37 | 0.7 |
| 4 | 43 | 1.1 |
| 5 | 49 | 1.5 |
| 6 | 53 | 2.0 |
| 7 | 56 | 2.3 |

生態

- 分布・移動：北海道南部以南の日本沿岸に広く分布します。
- 成熟・産卵：オスで3歳魚以上、メスで4歳魚以上でほぼ全ての個体が成熟します。産卵期は12～1月と考えられます。
- 食性：未成魚はアミ類、エビ類、稚魚等を捕食し、成魚はサバ類やイワシ類等の魚類やエビ類を捕食します。

漁獲の動向

平成22年の漁獲量は195トン、漁獲金額は1.1億円でした。平成元年以降の漁獲量は106～270トン、漁獲金額は1.1～3.3億円と推移しました。さし網と底びき網による漁獲が多く、両漁法で水揚げ量全体の7割以上を占めていました。

震災以降、操業自粛と国による出荷制限のため、水揚げはありませんでしたが、平成30年6月から試験操業が開始されました。漁獲量は19トン～263トン、漁獲金額は11百万円～191百万円でした。令和4年の漁獲量、漁獲金額は263トン、191百万円と前年を上回りました。

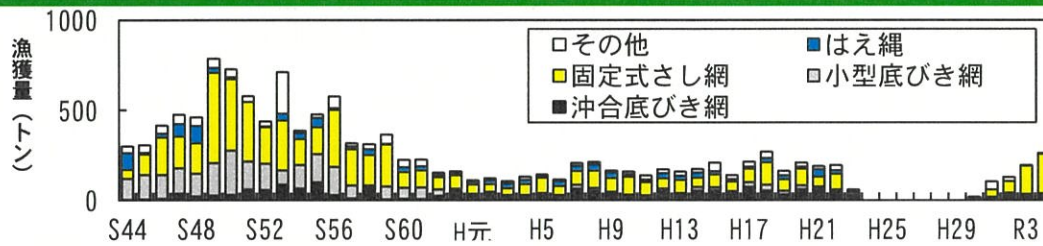


図1 スズキの漁業種類別漁獲量の推移

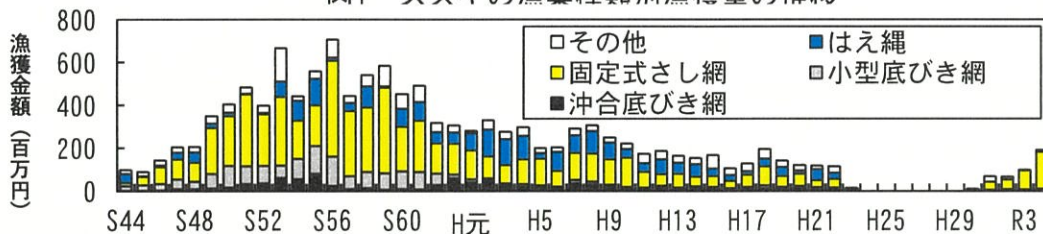


図2 スズキの漁業種類別漁獲金額の推移

資源の状態

- 底びき網のCPUE（1時間曳網）あたり漁獲量）データから、資源状況は高位、資源動向は増加傾向と考えられました。
- 松川浦における稚魚調査結果から、令和2年生まれが高水準と考えられたため、今後の漁獲量増加が期待されます。

資源の水準：高位 資源の動向：増加

現在実施されている管理策

特にありません。

今後考えられる管理策

小型魚をなるべく漁獲しないようにすることで平均単価の上昇、漁獲量の増加が期待できます。また、産卵盛期（12～1月）の漁獲圧を減らすことで、産卵親魚を獲り残し、産卵量の増加につながるものと考えられます。